

続く災害…

管路協会員が復旧対応

平成30年7月豪雨

6月28日以降の西日本から東海地方を中心に記録的な大雨となった平成30年7月豪雨では、19都道府県88市町村で土砂崩落、内水・外水氾濫等による浸水被害が発生しました。

管路協では、中国・四国支部が中心となり、広島県内の自治体で、下水管内の土砂除去など、復旧対応を行いました（詳細は54P）。



豪雨による被災状況（広島市内）



調査状況（海田町内）



強力吸引車による土砂除去状況（広島市内）



ボックスカルバート内への土砂流入状況（広島市内）



円形管での土砂除去状況（広島市内）



ボックスカルバートでの土砂除去状況（広島市内）

報告 III

平成30年7月豪雨 災害復旧支援活動報告



(公社)日本下水道管路管理業協会中国・四国支部広島県部会

丸伸企業(株) 毛利 法広

はじめに

平成30年6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨により、甚大な被害が発生しました。特に広島県では7月6日19時40分に大雨特別警報が発表され、県内の被害の多くがこれ以降の豪雨によるものでした。豪雨の影響で、河川の氾濫や浸水、土砂災害が発生しました。

広島市内では当初は被害に状態が把握できず、日常生活にそれほど不便を感じませんでした。JRの不通や高速道路の通行止めという事態になり、コンビニやスーパーで食料品や飲料水が品薄になるなど、浸水や土砂災害などによる被害を直接受けなかった地域でも被害の深刻さが徐々に分かりはじめるほど、被害が広範囲に渡っていくことを痛感しました。



写真1 豪雨による被災状況 (広島市内)

管路協への支援要請

大雨特別警報の出された翌日の7月7日には、広島市から被災したポンプ場に流入する汚水の搬出作業に関する準備の要請があり、9日には上記の汚水搬出作業の要請に続いて、管きょ内の土砂除去、管きょの被害調査の要請がありました。

また、安芸郡海田町からは9日に、被災した管の調査、呉市からは13日に、管内の土砂除去の要請がありました。本豪雨で協会に出動要請があったのは以上の2市1町です。

実施体制と実施状況

対策本部を7月9日に中国・四国支部広島県部会の部会長の丸伸企業(株)に設置しました。広島県部会の金島聖貴部会長が対策本部長代行に任命され、指揮をとりました。

支援業務については、表1に示す体制で実施しました。業務の実施状況は表2に示す通りです。出動された会員は全て中国・四国支部所属の19会員です。

これまでの管路協の災害復旧支援活動は主に被災した管の調査でしたが、今回は土砂除去が中心だっ

表1 前線基地の実施体制

前線基地責任者	氏名
統括	毛利法広 (丸伸企業)
副統括	舩成茂義 (丸伸企業)
副統括	三好武志 (菊池建設工業)
広島市安芸区担当	高松篤渡 (管清工業)
呉市担当	水落桂輔 (アクアスマート)

表2 支援業務の実施状況

要請自治体	業務内容	出動状況		
		班数	期間	会員数
広島市（安芸区）	清掃	12	7月15日～9月29日	14
	一次調査	5	7月18日～8月6日	6
広島市（東区）	一次調査	1	8月1日～2日	1
広島市（安佐北区）	汚水輸送	1	7月9日	2
呉市	清掃	3	7月15日～8月9日	4
海田町	一次調査	3	7月12日～14日、8月9日	2
	二次調査	1	7月31日	1

たといえます。業務を行う現場へ入る道路が被害を受けていて、通常なら1時間のところ、3時間かかった箇所もありました。

土砂除去の対象となった管は、流出土砂によりマンホールの上部が流され、管内に大量の土砂が流入したもので、その中には石、木材等の混じっているものがあり、作業の効率は通常と比べて落ちざるを得ませんでした。また、記録的な猛暑が続く中で、熱中症に気を付けながらの作業となりました。

支援活動を経験して

前線基地から各県部会への支援要請は、支部との連携により迅速に行うことができました。また、中国・四国支部としては、初めて自治体から直接支援要請を受けることとなり、戸惑いや不安等がありましたが、協会の協力により、被災自治体の期待に応えられたのでは、と感じております。

最後になりましたが、このたびの豪雨災害で被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。



写真2 大口径雨水管土砂除去状況（広島市内）



写真3 清掃状況（広島市内）



報告

災害支援活動

平成30年度の 災害復旧支援活動報告

公益社団法人 日本下水道管路管理業協会

平成30年度は災害が多かった年度で、管路協では被災自治体の要請により二つの災害の復旧支援に出動した。一つは7月豪雨で、広島県広島市、呉市、海田町の3市町に、もう一つは9月6日発生の北海道胆振東部地震で、北海道厚真町、安平町、日高町の3町に出動した。以下、復旧支援活動の概要を報告する。

1. 広島県広島市、呉市、海田町での復旧支援活動

広島県内の3市町からの要請で行った復旧支援活動の内容は表1のとおりである。

対策本部は、丸伸企業に設置された。

前線基地責任者として復旧支援活動の指揮を執ったのは下記の方々である。

- 統括 毛利法広氏（丸伸企業）
- 副統括 舛成茂義氏（丸伸企業）
三好武志氏（菊池建設工業）

- 地区担当 高松篤渡氏（管清工業）
水落桂輔氏（アクアスマート）

復旧支援活動に出動したのは、中国・四国支部所属の下記の18会員である。

- ：丸伸企業、菊池建設工業、千代田衛生興業、愛亀、管清工業、四国パイプクリーナー、光エンテックス、中村興業、中国環境、徳山ビルサービス、フレイン、藤本工業、クリーン、石山建設、アクアスマート、八晃産業、友鉄ランド、日之出水道機器

3市町との契約金額は合計で90,795,600円（税込）であった。呉市と海田町からの入金は平成31年3月までに行われていたが、広島市からの入金が31年4月になったので、一部の会員への支払いは4月とならざるを得なかった。

表1 広島県広島市、呉市、海田町での復旧支援活動

自治体名	要請日	業務	期間	班数	会員数	実施量 管きょ：mまたはスパン マンホール：基
広島市	7月9日	清掃（安芸区）	7月15日～9月28日	13	13	4,331m
		一次調査（安芸区）	7月18日～8月6日、 8月24日～28日	5	6	1,402基
		二次調査（安芸区）	9月13日	1	1	308m、14基
		一次調査（東区）	8月1日～2日	1	1	53基
呉市	7月13日	清掃	7月15日～8月9日	3	4	496スパン
海田町	7月10日	一次調査	7月12日～14日、 8月7日～8日	3	2	450基
		二次調査	7月31日	1	1	164m、6基
合計				24	18	清掃：4,331m&496スパン 一次調査：1,905基 二次調査：472m&20基

注：班数と会員数の合計は重複を除いた値